ポスター発表（専門領域別） | 専門領域別 | 体育科教育学

体育科教育学 ポスター発表

2022年9月2日(金) 11:30 ~ 13:00 第一体育館バレーボール2 (第一体育館バレーボール)

[11教-ポ-05]体力の二極化を配慮した小学校体育サッカーにおけるゲーム中の身体活動量

ボールの相違による影響

*津田 龍佑¹ (1. 金沢医科大学)

本研究では、小学校体育サッカーにおけるゲーム中の活動量を、ボールの相違と関連付けて検討することを目的とした。そのために、石川県下の A 小学校5年生1クラス24名（男子12人、女子12人）を対象にして、ゴムボール（molten社製、B614J）を用いたゲームとスポンジボール（molten社製、STS21）を用いたゲームをそれぞれゲーム行わせた。いずれもコート広さ・人数、ゲーム時間は次の通りとした。（縦20m×横10m・3対3、ゲーム時間3分）。活動量計（Omron社製、HJA-750C）を用いてゲーム中の各運動強度ごとの活動時間（低強度：0～2.9METs、中強度：3.0～5.9METs、高強度：6.0～METs）を測定した。また、ゲーム終了後に技術・戦術面、体力面、心理面から構成される質問紙調査を実施した（5件法）。主な結果は次のとおりである。

① ゲーム中の各運動強度ごとの活動時間をみると、ゴムボールを用いたゲームとスポンジボールを用いたゲームとの間に有意差は認められなかった（低強度 ゴム：10.8±20.4秒、スポンジ：17.5±30.0秒、中強度 ゴム：133.8±26.2秒、スポンジ：130.8±28.7秒、高強度 ゴム：35.4±25.7秒、スポンジ：31.7±26.5秒）。

② ゲーム終了後の質問紙調査をみると、心理面の関心の項目12・13・14「関心」「意欲」「態度」において肯定的に回答した（あてはまる・よくあてはまる）児童の割合は、いずれも9割を超えた。以上の結果は、両ゲームともに活動量は変わらず、かつ楽しくゲームを行うことができることを示唆するものである。